



「お元気ですか？」
「はい。お陰様で・・・。」

かけさま ころも
「お陰様」の心

日本では、昔からこうしたあいさつを大切にしてきました。「お陰様」という言葉には、次のような説があります。

昔、旅人が暑い夏の日差しの中をしのぐために木の陰で休んだり、また、雨や風、雪を防ぐために木の陰で雨宿りをしたりしました。その木の陰に「お」をつけて「お陰」、さらに「様」をつけました。そこには「お陰様」で旅を続けることができましたと感謝する気持ちが込められています。

木は旅人のために枝を張り、葉を茂らせていたのではありません。木はただ精一杯、木として生きているだけですが、木のお陰で旅を続けることができたのだと昔の人は考えたわけです。

「学校行事」で輝いた「葦高っ子」

さて、修学旅行、山の学習、海の学習やささりん発表会等の様々な学校行事があった2学期が終わろうとしています。各学年、学級でそれぞれが自分の目標を決めて、精一杯に努力した2学期だったと思います。特に「ささりん発表会」では、来場されたお年寄りの方からお帰りの際に「久しぶりの発表会で、孫だけでなく、どの子どもたちの発表にも感動しました。」や「子どもたちが一生懸命に演じる劇を見ている内に、お陰様で元気が出てきました。」などのお褒めの言葉をいただきました。

木が精一杯に枝を張るように、子どもたちが一生懸命に演じた劇や歌った歌声は、お父さん、お母さんだけでなく、おじいちゃん、おばあちゃんにも感動と元気を差し上げたのでしょ。子どもたちは、ただ一生懸命に演じ、歌ったわけですが、結果として自分たちの頑張りがたくさんの人たちに喜びと感動を届けることとなりました。発表が終わっていただいた大きな拍手は、子どもたちにとっても大きな励みと自信につながっていることと思います。そして、自分たちも多くの人たちに励まされ、支えられているという「お陰様」の心に気づいてほしいと願っています。

さあ、令和5年もあと数日となりました。年末年始を迎え、各ご家庭でもその準備のためにお忙しいことと思います。しかし、大掃除や年始のあいさつなど、日本の伝統行事を過ごす中で、『家族の対話』を楽しみ、「家族の絆」を深める大切な時間でもあります。どうぞ、それぞれのご家庭で素敵な時間となることを心より願っております。 校長 藤井 朗

海の学習 (9月)

5年生



修学旅行 (10月)

6年生



山の学習 (11月)

4年生



3年生



ささりん発表会 (11月)

1年生



2年生



ささりん発表会 (12月)